

第21回

ルネサンスと宗教改革

監修・講師
大久保桂子

学習のねらい

ヨーロッパ世界は14世紀～16世紀にかけて、大きな変容を遂げた。文化の面では、古典復興と人間性の可能性を追求するルネサンスが生まれた。ルネサンスはイタリアにはじまり、ヨーロッパ全域にひろがった。このルネサンスの精神が、長く権威をもってきたローマ教会の教えを問い直す宗教改革へとつながっていった。

＜ルネサンスと活版印刷＞

古代文化復興 人文主義 活版印刷

＜宗教改革＞

ローマ教会 ルター 聖書 プロテスタント

＜キリスト教の変容＞

カルヴァン イギリス国教会 対抗宗教改革 イエズス会

ルネサンスと活版印刷

14世紀のヨーロッパは、ペストの大流行に見舞われ、危機の時代を迎えていた。人々は、そのような絶望感のなかから、改めて人間の生と死を見直そうとした。その手がかりを、古代ギリシア・ローマの人間性の捉え方、描き方に求めた。これがルネサンスである。ルネサンスとは、「再生」「復活」を意味する。古代文化の復興であるとともに、人間の生に可能性を見いだすうごきでもあった。古代文化の再発見とともに、それを自分たちの生きる時代の知恵として生かそうとしたルネサンスの学者たちの思想は、当時の先端メディアである印刷術を活用して広まっていった。



■■■ 宗教改革 ■■■

西ヨーロッパ世界で千年あまりにわたって精神的・文化的支柱であったローマ教会は、ルネサンスがヨーロッパに広まった時代になると、公然と批判されるようになった。世俗の君主と変わらないローマ教皇や聖職者のふるまいに対する批判は、それまでにもあった。しかし16世紀になると、ルター、**カルヴァン**などの宗教改革者があらわれ、**聖書**をもとに、キリスト教の信仰は個人の問題であると説き、ローマ教会の権威を否定するようになった。このような**プロテスタント**の考えは、世俗の貴族や領主たちとむすびついて、プロテスタントを支持する国もあらわれた。

■■■ キリスト教の変容 ■■■

プロテスタントの批判にさらされ、ヨーロッパ全体の精神的支柱ではなくなったローマ教会は、みずからの権威を回復するために、自己改革に取り組んだ。教会が定めるキリスト教の教義を再確認し、教会のあり方を刷新して、キリスト教の布教にも取り組んだ。これを対抗宗教改革という。ローマ教会の布教は、世界の航路開拓（大航海時代）によって知られるようになっていたアジアやアメリカにも及んだ。日本にキリスト教を伝えた**イエズス会**は、このような対抗宗教改革で活躍した修道会のひとつである。

考えてみよう 調べてみよう

- グーテンベルクが開発した活版印刷術が、どのようにヨーロッパ各地に広まっていたかを調べてみよう。
- 人文主義の代表であるエラスムス『愚者礼賛』くしんらいさんを読んで、この作品が何を批判しているかを理解しよう。
- 「ヴィーナスの誕生」を描いた画家ボッティチェリが活躍した時代のイタリアの状況を調べてみよう。